

月下の銃声 (1948)

BLOOD ON THE MOON

メディア 映画
ジャンル 西部劇
製作国 アメリカ
色彩 B&W
時間 87分
初公開日 1951/09/11
公開情報 セントラル

【解説】

R・ワイズが「罨」で認められる前年に撮ったミッチャム主演のノワール西部劇とでも呼ぶべき一編。演出のつかみが拙く、雰囲気のみせる作品にしる、あまりにテンポが悪いが、RKOのB級暗黒映画を支えた名手ムスラカのロウ・キーのカメラが部分部分西部劇らしからぬ効果をあげていて、そこが見どころ。流れ者のカウボーイ、ジム・ギャリーは、旧友のライリング（プレストン）に呼び寄せられ、ガンマンとして雇われる。ライリングは牧場主ラフトンの許で働いていたが仲違いし、彼の牛運びをさまたげて困窮したところで牛を安く買いたたこうと、インディアン居留地の係官と組んで陰謀を企んでいた。ジムは最初、その手先として利用されるのだが、同じく騙されていた入植者のクリス（ブレナン）の息子が無残にも計画の犠牲になるのを見て、ラフトン側に寝返って、その次女エイミー（ベル・ゲデス）やクリスと協力してライリング一味を討つ。森の小屋に立てこもっての、そのクライマックスもままずまざだが、場面としてよいのは、中盤の薄暗い居酒屋でのライリングとの殴り合いで、その後のブレナンとのやりとりにも実感がこもる。ただ、出だしの雨中の旅から期待させるほどのリアルな味は、全体ににじみ出ていない。雪の中、係官を拘束して連れ回すくだりなど、もう少し膨らませても面白かった。ヌーボーとしたミッチャムと、どちらかと言えばオカメ顔のベル・ゲデスの取り合わせは意外にマッチしていた。

【クレジット】

監督	ロバート・ワイズ	Robert Wise
製作	セロン・ワース	Theron Warth
原作	ルーク・ショート	Luke Short
脚本	リリー・ヘイワード	Lillie Hayward
撮影	ニコラス・ムスラカ	Nicholas Musuraca
音楽	ロイ・ウェッブ	Roy Webb
出演	ロバート・ミッチャム	Robert Mitchum
	ウォルター・ブレナン	Walter Brennan
	ロバート・プレストン	Robert Preston
	バーバラ・ベル・ゲデス	Barbara Bel Geddes
	フィリス・サクスター	Phyllis Thaxter
	チャールズ・マックグロー	Charles McGraw